川崎大師ご本尊疎開講話記

戦時中の空襲から逃れたご本尊のお話

2019 年 8 月 20 日（火）

川崎の産業観光を支援する会　　根岸雅明　記

2019.8.20

川崎大師御本尊様の疎開講話記

【感想】川崎大師のご本尊が戦時中、空襲から逃れるために一時新横浜にある八幡山観音寺に疎開していたという事実のお話を聞くために、支援する会の仲間有志でお寺を訪ね当時のお話を住職からお聞きしました。

川崎市は昭和 20 年 4 月 15 日に米軍の 200 機余の B29 による大規模な爆撃を受け、市中心部と南武線沿いの工場が集中している地域は、壊滅的な被害を受けた。川崎市は重化学工業を主とする産業が発展しており、軍需生産でも重要な役割を果たしていた。そのため、米軍から最重点の攻撃目標の一つとされていた。（総務省のホームページより。）

住職の話では空襲が激しくなるにあたり、一部の檀家や関係住職が密かにご本尊の疎開を考えていたようです。地域住民にこのことを知られると混乱を招くということで内密に行われたそうです。

なぜこの八幡山観音寺だったのかは先々代の住職糸川（高橋）りゅうちょう氏が八幡山観音寺を再建されて品川の立会川の来福寺に移り、やがて川崎大師の管主になられた縁でこの八幡山観音寺に一時預けられたと話されました。当時のお寺の住職は世襲制ではなくお寺さんの弟子として奉公修行しながら僧侶になったとも話されました。

たまたま川崎の空襲の前日に大八車数台で本尊や仏具などを乗せてこの地に疎開し収めたそうです。防空壕みたいな穴を掘ってご本尊を納めて住職は毎日お勤めをしていたと話されました。疎開が 1 日遅れていたらご本尊は失われたのですね。奇跡というか関係者の行動努力が報われそれを防いだのだと思いました。

川崎大師地区一帯は空襲で壊滅的な被害を受けて住民は川崎大師のご本尊も失われてしまったと悲嘆にくれていましたが、被災後すぐに広報で無事であることを地域住民にお知らせしたという。地域の人たちが焼け跡から材料を集めて、すぐにこの地に仮小屋を建ててご本尊を納めて地域住民の再建への心の励みとしたようです。

この新横浜地域の貧しかったお寺（当時の檀家は三十数件ほどだったとう）の中興の祖である住職糸川氏の経歴やお寺の再建のお話、農業では水稲でなく陸稲を作っていた貧しい地域などを知ることができとても興味深いお話でした。

またお寺の歴史では明治時代の神仏分離令によりこの地の八幡山神社と観音寺が分離されたお話もお聞きしました。奈良平安の世から神と仏が共存して日本国民に長く愛され信頼され親しく受け入れられてきた歴史が明治時代になり突然神仏分離、廃仏希釈という過激な思想になってきたのはとても興味深い事だなと思いました。人心の突然の心変りも学ぶいい機会となりました。

ご住職の講話後にラーメン博物館により昭和のレトロの雰囲気の建物の中でラーメンを食べてきました。三波春夫のチャンチキおけさ、水原弘の黒いはなびら、島倉千代子の歌などが流れていました。一時懐かしさを覚えました。

戦後 74 年たち明治も昭和も遠くなりにけりを実感して、ちょっと前の時代を振りかえって、考えるのもいい機会になりました。

【日付】令和元年 8 月 20 日（火）9:00～10:00

【場所】八幡山観音寺…横浜市港北区篠原町 2777

真言宗智山派

【参加者】9 人

【写真】

観音寺住職と参加者皆さん

八幡山観音寺

不動堂…不動明王を祀ってあるお堂

弘法大師像

ラーメン博物館　利尻ラーメンをいただきました